

第 1 検討部会 会議録

会議の名称	第 14 回 第 1 検討部会
開催日時	平成 20 年 2 月 22 日（金）午後 5 時 58 分から午後 9 時 9 分
開催場所	川口市職員会館 会議室
出席者	（部会長）金井副委員長 （副部会長）金子委員、神尾委員 （委員）池田委員、砂沢委員、落合委員、佐藤（一）委員、林委員、 宮原委員、
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関根氏（元川口市政策審議監）へのインタビュー ・ 運営調整部会からの検討課題について ・ 条例に盛り込む内容について ・ 今後の部会の進め方について ・ まち歩きについて
会議資料	
発言内容	<p>■ 関根氏へのインタビュー ※別添インタビューメモを参照</p> <p>■ 運営調整部会からの検討課題について</p> <p>① スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営調整部会（以下、調整部会）から 3 つの宿題がありました。前回も少し議論しましたが、まずスケジュールについてです。 ・ 前回の部会の議論では、事務局のお示した案でよいのではないか、場合によっては早めないといけないかもしれないということでした。 ・ ひとつの区切りが 4 月の全体会となります。その後出てきたアイデアを足し合わせたり、調整したりすることは必要となります。 <p>② 広報・PI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう 1 つの宿題である専門的な組織についてですが、広報 PI という話が調整部会で議論になっています。 ・ これまでの第 1 部会議論では、今すぐ広報・PI をやるという話にはならないだろうという意見だったと思います。 ・ もっとも、調整部会は 16 人なので、もっと動きをスムーズにするにはもう少し少人数の別組織で広報・PI を行う必要は出てくるかもしれません。 ・ 広報・PI については、いずれ設置しなければいけませんし、設置したからすぐに始められるものでもないので、何をどのような作戦にするかに

については、いずれは検討する必要があると思います。何らかの専門組織を作ることになるのではないかと私は考えています。

- 他の4部会では条例に盛り込みたい項目を既に出しているのですか。
- 必ずしも出す話が調整部会で決まったわけではありませんが、4月に議論の報告はお互いにするので、おそらく多かれ少なかれ、項目案は出てくると思います。次回の調整部会でも全体会では各部会からアイデア出しをしてもらう、ということになると思います。
- 調整部会には16人もおられます。個人的には、少し多いのではないかと考えています。
- 専門組織を置こうという議論が出ている背景にはそれがあると思います。ただし、少人数が勝手にやっても困るし、多くなればみんなは参加できますが、動きがとれなくなるということもあって、難しいところではあります。
- 機動的に動くには専門的な組織を作るということにならざるを得ないでしょう。
- 部会長だけの少人数でやれというのはよくないと思います。やはり市民委員が入ったものにするべきではないでしょうか。
- 前回までの議論を振り返ると、広報の組織をつくるといっても、方向性がでてから作ればいいのではという話でした。
- 調整部会では、PIが必要ないとは誰も思っていないのですが、今すぐ市民を巻き込んでやるべきだ、多くの市民の声を拾い上げるべきと主張する人もいました。
- 我々公募委員が、この自治基本条例策定委員会に入っていること自体が、市民を巻き込んでいる、広く市民参加を得ている、ということではないでしょうか。必要であれば、そう主張する委員たちが、どんどん市民の考えを拾ってきて本気で発言すればいいと思います。
- 今はまだ地固めやスケジュールが必要だという意見は言ったのですが、何を言ってもまずは、市民の意見を聞こうということでした。。
- 今の段階では待つということでしょうが、いずれはそのエネルギーでやってもらうことになると思います。

- ・もし、自分が一般の市民として、何の方向性も見えないままで、まちかど懇談会に参加して、とにかく何でもいいから意見を言ってほしいといわれても、何を言っているかわかりません。
- ・内容が固まった後で、これからすぐに動けと言われても、難しいので、広報・PIを企画する組織は同時並行で設置しておくことはある得るのではないかと思います。
- ・49名のなかで広報・PIをやるということなののでしょうか。
- ・今のところはそうなるでしょう。
- ・調整部会では、個人的な見解なのか、部会を代表した意見なのかは分からない意見もあります。
- ・今すぐ行動するという意味ではやめといたほうがよいというのが、第1部会の意見ということですね。

③条例のスタイル、素案の作成

- ・宿題の3点目に条例のスタイルについてです。ゴールの姿がないと、やるが見えてこないということだと思います。理念型か具体的なものを書くかという議論があります。
- ・また、条例の素々案を誰がまとめていくのか、16人では難しいのではないかと思います。
- ・条例に盛り込みたいものを誰が入れるかについては、我々の部会では、各部会がやらないといけないという意見だったかと思います。
- ・まず理念型か具体型かということについてはいかがですか。
- ・前回議論しましたように、事の性質上理念的になる条項もあるし、具体的に規定する条項もあるしということではないでしょうか。そもそも二分論の世界ではないという話だったと思います。
- ・項目間で相反するものがあったとしてもよいのではないかと思います。
- ・「市民の役割」などは理念的になるでしょうし、「住民投票」は具体的になろうと思います。

- ・ある分野・事項について、ものすごく詳しく検討できたことがあれば、それは別の条例や制度として書くことになるかもしれません。
- ・前文は理念的になるでしょうし、盛り込むものによっては具体的になるものもあるでしょう。
- ・市長の任期まで具体的に規定している自治体もありますし。
- ・私も理念型か具体型かはこだわらないでよいと思います。
- ・調整部会でおうちの形を決めないと建築素材も決められないという表現をされた方がいました。だから何型ということが必要だということでした。
- ・我々としてはまず項目案を出すということを具体的な動きとして出したわけです。
- ・パーツばかり集めてきても、いい家は建たないという感じでした。
- ・それは、むしろ、具体的なところと理念的なところが両方いるという議論でしかないですよ。パーツは必要ですが、パーツだけ集めてもダメです。
- ・整理はする必要は出てきます。何でも入れてくれではいけないと思います。
- ・目次案や章立てを書いて、部会として提案してはどうでしょうか。
- ・入れたいもののパーツだけではなく、目次を誰がつくるのが大きなポイントになります。
- ・第1部会では野村総研がまとめたものがあります。
- ・それにこだわる必要はありません。ただ、項目だけを出せばいいというのではなく、まとめる必要はあります。
- ・ところで、各部会では、完全に4月の全体会までに項目の洗い出しをやることになっているのでしょうか。
- ・条例に盛り込む項目は、各部会が全体会で出すことになりそうです。

- ・パーツは出てくるようなので、あとは間取りというか、全体構造を誰かが考えないといけません。
- ・もちろん各部会で構成案まで出すというのも1つのアイデアだと思います。そうであっても、各部会で出てきたものを誰かがまとめることにはなると思います。それを誰がやるのかという議論に、多分なります。そうすると16人では出来ないという話に普通にいったらなるだろうということです。それはどうしますか。
- ・調整部会のなかで、専ら広報に関心のある委員を中心に専門組織を作ることになるのではないのでしょうか。
- ・三部会くらい想定しているのでしょうか。
- ・前回の部会での報告では、作りたいという話が漠然とでているだけで、そこまで具体的な内容案を考えていないということでした。
- ・広報も大事ですが、目次（間取り・骨格）委員会を考えることも大事です。
- ・骨格委員会というのはどうですか。
- ・広報をやり始めるのは骨格が決まってからにしてほしいと考えます。
- ・みなさんの意見では、骨格委員会は置いたほうがよいと思いますか。
- ・骨格が各部会から出したものから、まるっきり別のものになったら困ります。
- ・調整部会の下に骨格委員会と広報委員会を作るというイメージでしょうか。
- ・5部会から骨格を出してきて、それを整理する役割が必要となります。
- ・全体会のときに多数決をとってはいかがですか。広報が今すぐ必要かなど。
- ・あまり多数決で決めると強行採決と言われかねません。
- ・調整部会での議論を聞いていると、広報というよりは公聴の感覚が近いのではないかと思います。

- ・公聴という意味では必要なこともあると思います。何回か議論すれば落ち着くとは思いますが、広報については調整部会で確認が必要だけれど、公聴については委員が自由に聞いてよいと思います。
- ・広報なのか公聴なのか、共通認識がないままに多数決をやってしまうと実は、お互いに同じ思いがあったかもしれないのに意見が分かれてしまうことになるかもしれません。
- ・公聴は各部会の活動としても可能ですし、または市民活動の一環として私的に行うこともできるかと思います。
- ・公聴といっても、広く聞くというよりは、だれか対象が決まっているようなイメージがうかがえますが。
- ・公聴という表現を調整部会のなかで使っていたわけではありませんが、内容的にはそうなんじゃないかなと私が受けた感じを言っただけです。
- ・多くの英知をとというのは分かりますが、全員でやるわけにはいかないし住民投票やるというのもどうかと思います。市民の意見を聞くことが自治基本条例には必要だということであって、背後に何かあるということろまで考える必要はないと思います。
- ・広報なり公聴なりやりたいというものが明確ではないということですね。その部分を少人数に企画してくれということはあるうと思います。
- ・そもそも、広報のイメージなのか、広聴のイメージなのか、決まったことを広報したいのか、聞く内容をしたいのか、各部会でできる話なのか、私的にやる話ですむのか、といったようにいろんな議論があり得るのですが、それが詰めきれていないので、そこを考えてくれというのをやってもらいたい気はします。
- ・ただ、本来は、骨格は誰がやるのが大事です。置かないのだったら調整部会でやるしかないのですが、各部会からある程度、目次は出ると思います。まったく、箇条書きのままの意見がでるとは思えませんし。それで全体の間取りを決める人が必要となります。
- ・誰がやるといいと思うか、ということ調整部会でどう言うかです。我々3人は調整部会で16人ではできないでしょう、という議論に当然なると思うので、なったときにこういう風にした方がいいと思いますといわないと全然話が前に進みません。皆さんの意見はいかがですか。
- ・調整部会のなかで骨格委員会の委員を選んでもらってはどうか。
- ・部会のことを代表してもらうのが前提となります。調整部会ならば、他の部会のこともしっかり分かっていますし。

- ・骨格委員会と調整部会を兼務するとその人への負担が重くなることが予想されます。なるべく多くの人ができるというのなら調整部会の人ではないほうが負担のバランスは取れると思います。
- ・新しいエネルギーも必要だと考えます。いろんな専門組織ができてきて、調整部会がなくなるという可能性もあるかと思っています。
- ・調整部会を分けて広報の人は広報へ、骨格の人は骨格へと二分割するというのもあります。
- ・骨格の作成は調整部会でまずやってもらって、でもまとまらないということになるでしょうから、そのあとで少人数組織からたたき台がでてくるのではないかなと思います。
- ・そのたたき台は、誰がつくるのでしょうか。
- ・調整部会でやっていく中で、ある程度の骨格までいかないまでも、素材というか、うちで出しているような部会共通なものというのでできれば方向性も見えてくるでしょうから広報と骨格といった形で分けていただいてもいいのではと思います。現段階では、調整部会の本体でやっていただくということが一番いいのではないかと思います。
- ・とりあえず、5部会から出てきた項目案を相互対比してみると、かなり似たものがでてくるかもしれなし、ある部分だけ内容の濃いものが出てきたりするかもしれません。
- ・それぞれ5部会で専門分野に応じて検討をしているのですから、それぞれの分野に厚みがあるものになってくるのではないかと思います。それぞれに特徴があると思います。
- ・この委員会の発足当初に、「どういう方向でやるのか」という問いかけに、5つのアプローチ方法に分けて用意した部会のうち、各委員は自分の好きな部会に属して、策定の討議に参加して作る、ということでした。さらに「項目を5部会で分けて作っていくのか」という問いかけには、全体を視野に入れながらも、それぞれ5つの部会で条例案を作っていた。そうすることで各部会では、自分たちの専門分野に特化した観点から多角的に問題が考えられる、ということで5つの部会に分けたとご説明を受けました。ですから、各部会からの項目案・骨格案は、特定の分

野だけに特化したものは出てこないと思っています。

- ・広報と一口に言ってもそれぞれが抱えているイメージが違うと思います。骨格についても他の部会がどのようなことをやっているかわからないので、最初の段階として調整部会でまとめていただいてもいいのかなと思います。
- ・調整部会で各部会から出てきたものをまとめる努力をしていただくという意見が多いようですね。
- ・調整部会ではなかなかまとまらないのではないかと危惧しますが。
- ・次回の調整部会では、持ち帰った宿題を検討するということですよ。
- ・また前回の議論の続きになる感があります。
- ・骨格委員会については、まだ、条例に盛り込みたい項目案が出来てない部会については骨格案等を含めて、締め切りまでに素案のとりまとめのご努力をお願いするということになるのかもしれない。
- ・次回の調整部会では、前回の宿題を出し合います。そして第1からは、骨格について提案するわけですが、骨格ってなんだろうか、というイメージがないと、それが議論されても持ち帰りになるのではないのでしょうか。
- ・何をもって広報活動をやるのか少し検討してみてくださいと言わないと、言った人たちの気持ちも救われないう、そんな感触があります。最初のうちは、何も動いていないのにも思ったりもしましたが、何回か聞いてみると、何を検討するのか検討してみてくださいといってもいいと思います。
- ・それを5つの部会から1人ずつ出してもらって、積極的な人も、あまり積極的でない人もいるかもしれないので、何らかの議論になる感じがします。
- ・その広報立案委員会とでも称しましょうか、そのメンバーは調整部会のメンバー以外からでもよいという考えですか。
- ・そのあたりは、まだ考えがまとまっていませんが。
- ・先ほどのご発言の意図するところは、各部会から出したほうが全体のバランスがとれるということと嫌々の人が入ったほうがバランスのとれた

議論になるだろうということだと思います。それもあって、各部会から1人ずつ出すということでやりたい人だけでやるのではないというご提案ですね。私は、調整部会から出すと限られてしまうので、それは避けたほうがいいかなと思います。ひとつのご提案ですね

- ・そういうことも考えないと市民参加をないがしろにしているということになりかねないと思ったからです。具体的なことで議論するならいいのですが、形式論でぶつかっていてもどうかなと思いました。調整部会以外から選んでもいいという発想があってもいいと思います。
- ・置くとしても広報に関しては、置かなければならないと積極的に思うわけではありませんが、置きたいという人の気持ちもわかるし、すぐに行動されても困るけど、何を広報とイメージしているのか具体的なイメージを立案して検討してもらうことはあり得るということですね。その場合、やりたい人だけで行動しないという意味で各部会から部会の意見を携えてという意味で1人出すということで、それがアイデアとして通ったとしたらそんな感じを言うかもしれないということですね。
- ・各部会で嫌々人が選ばれて、出てくれるかどうか心配ですね。
- ・各部会から選出するということだと思います。もし、置くとしたらそういう提案を調整部会ですということにしましょう。全体会のほうではやりたい人だけが有志でやるというアイデアになる可能性も十分にあると思います。各部会で互選になるとやりたい人が入れない可能性がでてきますから。
- ・広報の企画書を書くまでですよ。
- ・広報はどういうことをやったらいいかということ議論して欲しいということです。
- ・名前を広報企画立案委員会と限定するなどしておかないといけませんね。
- ・そうじゃないと組織全体の広報ではなくなります。個人的にやるのはご自由にやっていただいてもいいわけです。
- ・どういうタイミングで何をするかということを出してもらって、また調整部会で議論すれば、全体のものになるわけですね。

- ・今は、広報のイメージが一致しないところで議論しているので、あるいは、あの人はこんなことを考えているのではないかという推論で議論しているからよくないので、それを具体化してくれということです。
- ・もうひとつの素案とか骨格とか間取りとかの話は、出てきたら調整部会でしばらくは、もんでくれということです。
- ・それでは、宿題については、スケジュールはこのとおりで、条例のスタイルは、つくりたいようにつくるとして、素案は各部会からきたものについては、まずは調整部会で議論しろと、それでらちがあかなくなった時に、小委員会を置くと。最初にある程度は、らちがあかないということをお互いに経験しないと次にいかないでしょうね。いきなり何とか委員会を置くとあいつらがまた、勝手にやったということになりますから。それから、専門的な組織については、もし、立ち上げるのなら広報の企画立案委員会を各部会から委員を出すということでどうですか、ということです。
- ・骨格の意味は目次、章立てという意味である点を調整部会では確認しておいたほうがよいと思います。また、条例の中身は各部会で持ち寄り、それをどうやってうまくつけあわせるかということで、そこのところをきちんと調整部会で言わないといけないと思います。
- ・たとえば、この部会で野村総研が作ったようなものをイメージしていますというように。
- ・他の自治体のことを勉強されている方、すごくインプットされている方は枠を決めているところがあるかもしれません。
- ・うちの部会はそんな枠はいいやという自由な発想でまとめたいと思います。
- ・骨格委員会は鋳型を作るというイメージですね。
- ・骨格というのはいい言葉だと思います。骨格ができて始めてスリムにするか、重くするかという議論ができるのではないかと思います。
- ・どのような言葉で伝えたら伝わるのか非常に難しい気がしますが、イメージはこんなようなものをつくと、他の自治体の条例を見れば、何か骨格を持っているわけで枠があって、並んでいますので、一つのパターンはあると思います。調整部会の宿題は、そういうことで持ち込むことにしましょう。意見は言いますが、当日の流れでどうなるかは、わかませんが。

・それでは調整部会ではそういった点を報告します。

■ 条例に盛り込む内容について

・条例に盛り込む内容についてです。

・今日の関根さんの話では行政力とか、行政審議委員、文書で市民が意見を出すことの意味、提案権といったりしますが、という話がありました。
・また、文書で来たものについて市役所は回答・返答義務があるというのを盛り込むというアイデアもあるかなと思います。

・川口マラソンについて市長への手紙がきたことで、大変よく実現されています。

・項目案についてはいかがですか。

・資料で川崎市の都市憲章条例案のコピーを配りましたが、残念ながら議会の理解を得られず、葬られてしまいました。これは総合計画も兼ねております。これは私個人として情報提供をしました。ぜひご覧ください。
・一つは中身の話と骨格の組み方としてと両方あると思いますが、次回、集中的に議論しますが、今、お気づきの点があればお願いします。

・危機管理のところですが、災害、洪水も入れてほしいです。

・その項目案では、危機管理の対象として、自然災害による場合も含めて市の行政機構が被害を被ったとき、と考えて提案したものです。たとえば、市庁舎の火災やコンピュータのダウンなどで市の機能がストップするとか、自然災害被害だけでなく、そのような事故を含めて危機と捉えています。

・今のご時勢を反映すれば、テロなども想定されます。

・過去には火事で市庁舎が燃えたというのがありますし、洪水も大きな事件でしたから、根拠がはっきりとあるわけです。

・今ですとデータが無くなったということになってはいけませんので。

・危機管理というと、危機発生時の具体的・迅速な対応を講ずることですが、そのためには、「防災的な対応」という管理面整備と、そのような事故・災害が起きた場合に、いかにリカバリーするかという「業務回復の態勢準備」、という二本柱があります。これらを日頃からきちんとしておく必要があるということで、危機管理の項目案を提案しました。

- ・解説をつくるときに、なぜ、危機管理がでてくるのか、と言われたことに対して、「今は危機管理が問題になっているから」ではなくて、「川口ではこういう災害があったとかこういう火事があった」とそういう話を書けるとおもしろいと思います。
 - ・首都圏地震で都民、都内通勤者が被災したときに川口市、川口市民が被災者に冷たいか温かいかも重要となるでしょうね。後世に語り伝えられます。
 - ・帰宅難民を想定した防災訓練もしています。
 - ・これは非常に大きなポイントになると思います。
 - ・川口都民のことがよく話題になりますが、昼間残っているのは誰なのかと考えると、ママと子どもです。話題に上りにくいのですが、昼間川口で活動している人たちを意識するものがあつたほうがよいと思います。
 - ・前文のなかで地勢的な特徴、東京に隣接していることの意味合いは大きいという点を書いておくべきでしょう。
 - ・さきほど、関根さんの話の中で「都県境都市」という言葉がでていました。その言葉は、おもしろいかもしれません。
 - ・東京 23 区がどうするのかが川口にとっても重要となるので、千代田区や足立区のほうにちゃんとやれということを川口はもっと言わないといけないかもしれません。
 - ・条例に盛り込む項目はまた次回検討したいと思います。
- 今後の部会の進め方について
- ・次回は条例に盛り込む項目の議論、その次の部会は古城先生へのインタビューとなります。
 - ・古城先生の回の前に調整部会があるので、古城先生のインタビューの後、調整部会の報告や宿題も共有できると思います。
 - ・4月以降のヒアリングについて、前回女性をとという話でしたが、事務局も人選が難航しているようです。
 - ・大野市政や永瀬市政を語るとなると難しいのではないのでしょうか。
 - ・子育てを一端終えたシニアな方でボランティアなどやっている方がいらっしゃったらよいのですが。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月以降は女性に聞く回が1回と、あと、私は公明党の市議に聞いてみたいと考えています。 ・ これとは別に全体会での他の部会の議論もみて、第1部会のアイデアを検討する機会があったほうがよいと思います。 ・ 調整部会を一度傍聴してみたほうがよいですね。 ・ できれば皆さん、調整部会にもオブザーバーで出られてはいかがでしょうか。 ・ 雰囲気を知ったほうが憶測で議論することはないので、よいと思います。 <p>■まち歩きについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の説明 ・ 船上視察については、水の上から川口を再発見しませんかというコピーにしました。 ・ いずれの企画もこの指とまれ方式で、この委員会とは別の私的な活動という位置づけですね。 ・ それでは、本日はこれで終了します。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>次回以降日程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は次回は3月17日18時から、次々回は3月28日18時から。